

書店における万引に関するアンケート結果について

平成14年10月25日
経済産業省
商務情報政策局
文化情報関連産業課

経済産業省商務情報政策局文化情報関連産業課では、平成14年6月1日から6月30日にかけて、日本書店商業組合連合会及び社団法人日本出版取次協会の協力を得て、全国の書店2,530店舗に対して、万引に関するアンケート調査を実施した。

調査方法

配布書面 「万引き意識調査票」
「万引き（窃盗）事例報告書」

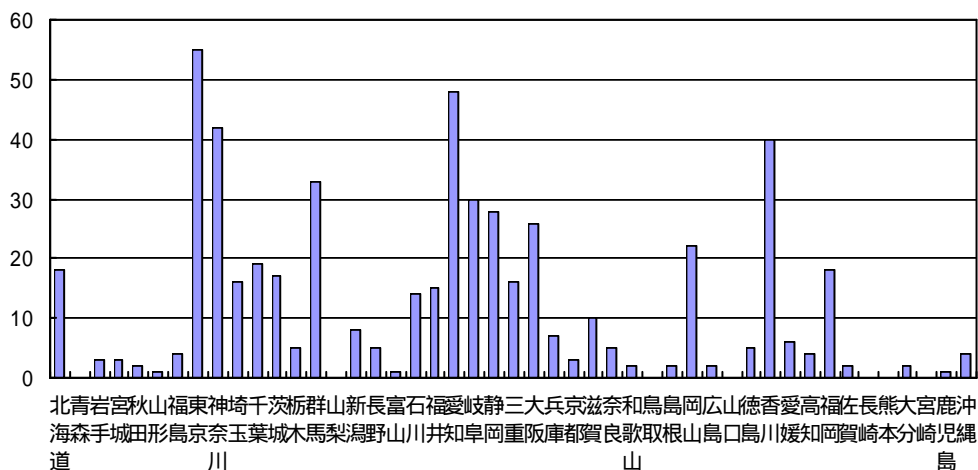
調査期間 平成14年6月1日から6月30日まで

回答状況

回収期間 平成14年7月10日から8月15日まで
有効回答数 「意識調査票」 483通
「万引き（窃盗）事例報告書」 504通（339店舗分）

調査対象書店の都道府県分布

「意識調査票」「万引き（窃盗）事例報告書」の双方、あるいはいずれか一方が提出された店舗の都道府県別分布は次の通りである。



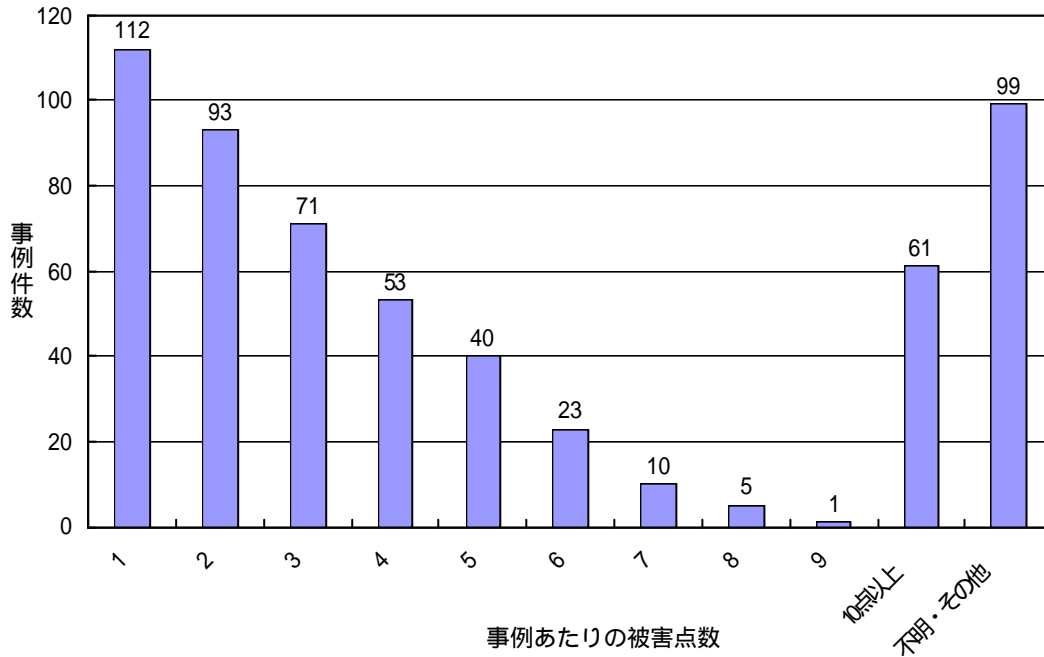
n=545

「万引き（窃盗）事例報告書」集計結果

Q1 対象となった商品・数量（推定）

万引事例1件あたりの被害点数を調査したものである。

一度に、複数の商品が盗まれている場合が多いことが明らかになった。



n=504

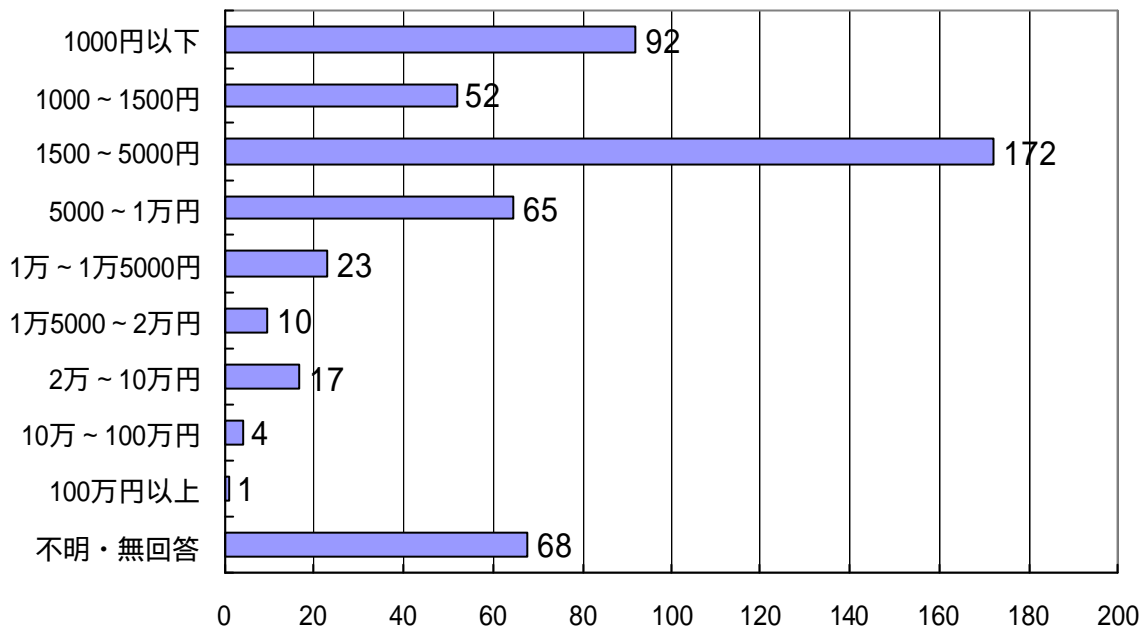
万引事例1件あたりの被害点数を、商品の種類別に集計した平均値が下の表である。特に、コミックスは、一度に何点もの商品が盗まれる場合が多いことが、明らかになった。

種別	1件の被害点数 (平均)
コミックス	6.6
写真集	4.1
月刊・週刊誌	3.9
一般書籍	3.4
文庫新書	4.0
C D	3.1
ビデオ・DVD	4.3

Q2 対象となった商品の合計金額（推定）

万引事例1件あたりの被害金額を調査したものである。

1,500～5,000円の被害が最も多く、平均では1万円弱となっている。

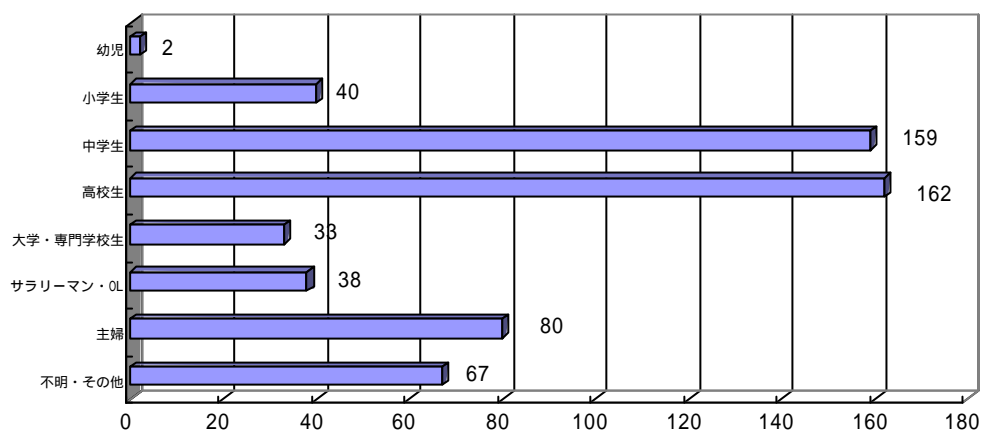


n=504

万引事例1件あたりの被害金額平均 9,433円

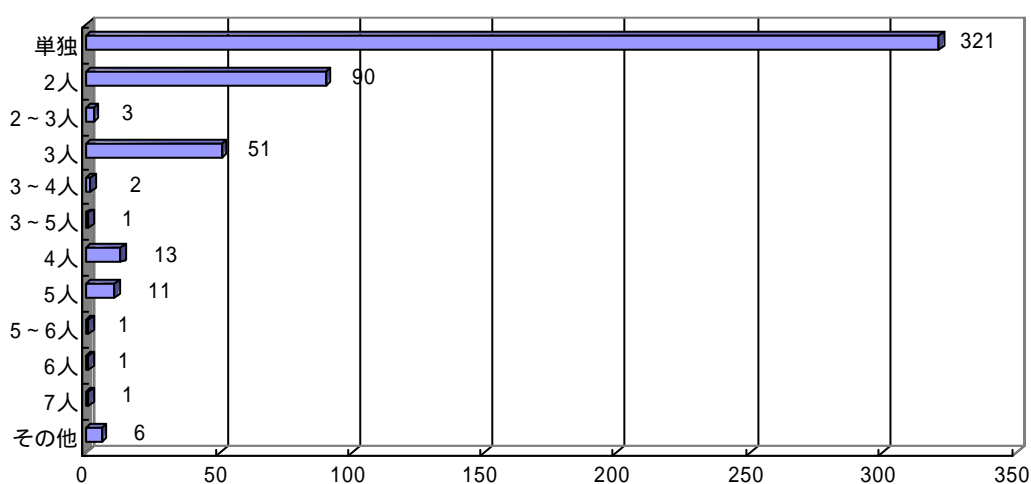
Q3 万引をした者の年齢など

万引をした者を年齢別に見たところ、中・高校生が圧倒的に多いことが、明らかになった。



n=504

次に、万引をした者の人数は、単独及び2～3名が多かった。

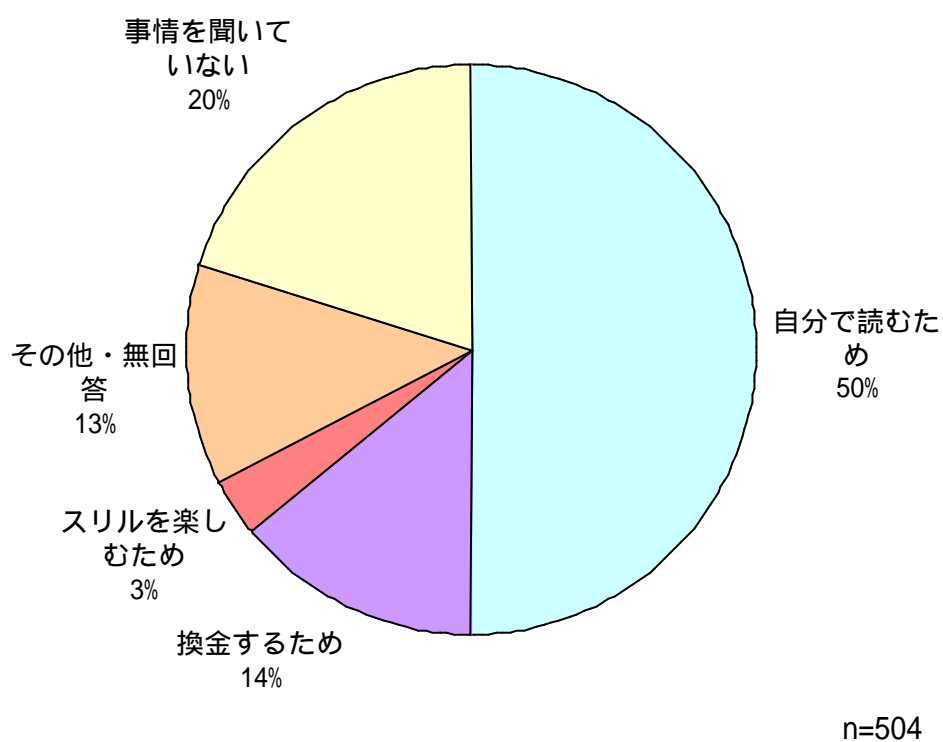


n=504

Q4 万引の目的

万引をした者に対して、万引の目的を聞き取ったのは、451件のうち345件であった。

万引をした者が申告した万引の目的は以下のとおりである。

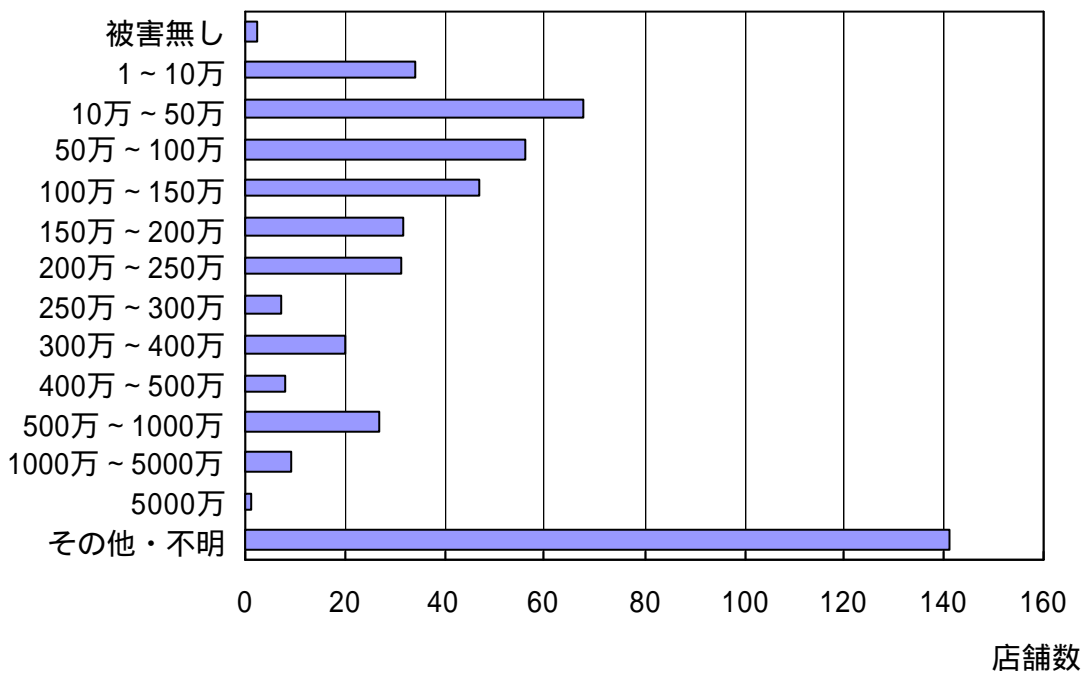


「意識調査票」集計結果

Q1 万引による過去1年間の被害額はどのくらいだと思いますか。
そのように考える理由も併せてお書き下さい。

各店舗の1年間の被害額を推定すると、平均で約210万円となっており、各回答における推計方式も併せて考えると、年間売上高の約1～2%に相当すると見られる。

書店の税引前利益が10%程度であると考えられることから、万引の被害が、経営に大きな影響を与えていることが推測される。

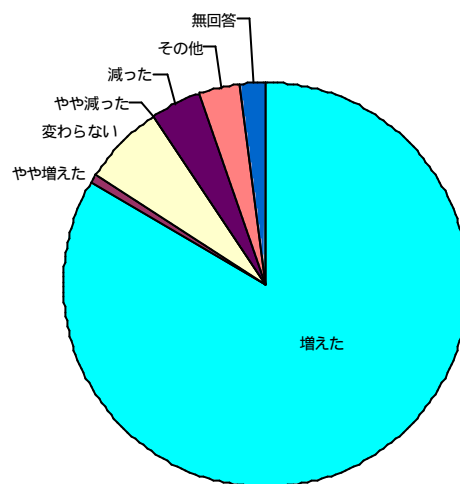


n=504

1店舗あたりの被害金額平均 2,118,685円

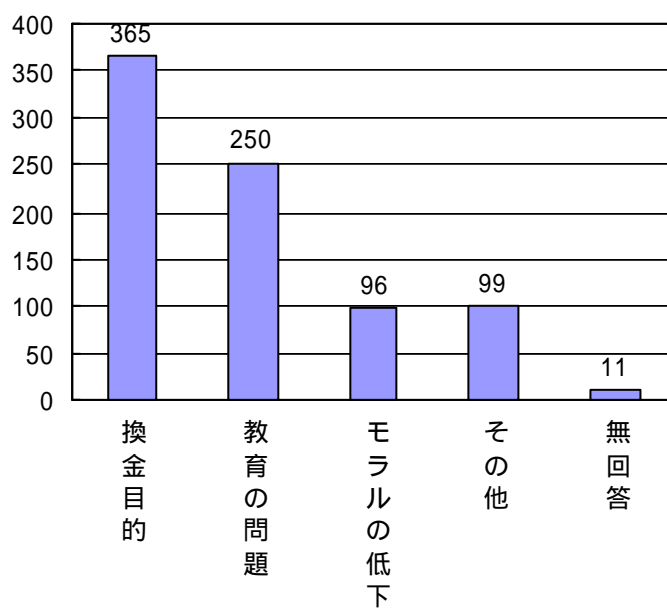
Q2 この数年で万引が増えたと思いますか。
 増えたとお考えの方は、その原因として考えられることも自由にお書き下さい。

この質問に対して、万引が増えたと回答した店舗は、全体の83%を超えていた。



n=483

更に、万引が増えたことの原因としては、「換金目的」による犯行が増えたことに加え、「教育の問題」や「モラルの低下」が挙げられている。

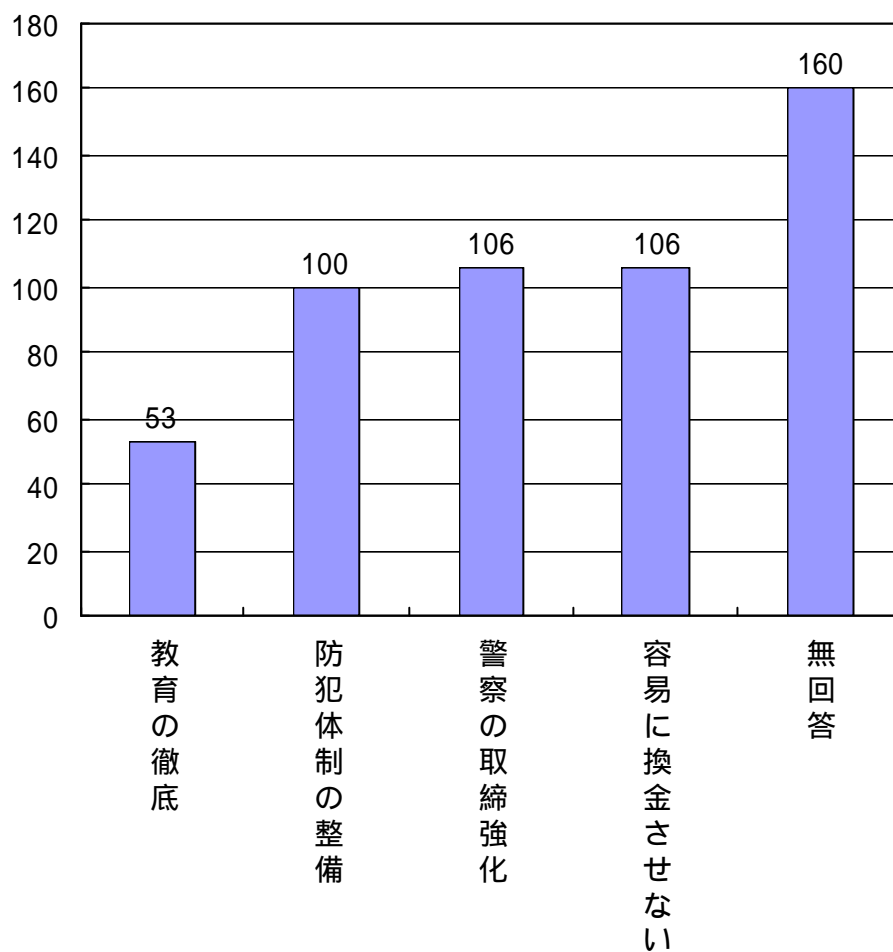


n=483

Q3 万引事件に関する御意見などをご自由にお書き下さい。

解決策について、大別して以下のような意見が見られた。

なお、「防犯体制の整備」とは、店舗自身の防犯体制を強化することを意味する。



複数回答可

n=483